

2001年初めてのカンボジアで支援開始(住田代表理事のカンボジア回顧録)

### 私のカンボジア支援 —その3—初めての学校建設

◇「有難う、ありがとう！本当にありがとう！申し訳なかったです。」

パリ和平協定が1991年に調印され内戦が終わったが、2001年5月に初めて訪問したカンボジアは、人心の荒廃も激しく、復興が進まず人々の生活は貧しく、特に地方の州では極貧状態だった。その上内戦の影響で各家庭ではまだ戦争で使った銃や手りゅう弾を持っていた。治安も悪かった。各州には州を守る軍隊が駐屯していた。外国の支援組織の人々は「太陽が出たら支援活動に出かけ、太陽が沈む前にホテルに戻れ、支援活動は日中だけ！」と言われていた。

そんな中、訪問した政府の役人を通して「ポーサット州（トモケオ村）に学校を建てて欲しい」との依頼があった。プノンペンでの予定が詰まっていた私は、深く考えずに「今回は学校の調査に行くことが出来ないで、村人や校長先生がプノンペンに出てきて説明して欲しい。」と言ってしまった（カンボジアの惨状は頭にあったが、現実には日本の生活が頭に在って言ってしまった）。

5月某日、  
村の長老8人がプノンペンに出てきたのです！！  
「よくプノンペンに出て来られましたね?!」と聞く私に  
「村人は誰も車を持っていません。知り合いの、また知り合いの、そのまた知り合いの人を頼ってその人の車で来ました。プノンペンに住む空港職員で、私たちは誰もその人を知りません。1台に8人が乗ってきました。6時間かかりました。」と疲れた顔で話してくれました。  
「有難う、ありがとう！本当にありがとう！申し訳なかったです。」と私。

長老たちの熱意に心を打たれました。その後、村の学校調査に3回行き、長老・学校の先生・村人と話し合いを重ね、2001年10月、校舎建設が始まりました。

写真上:建設委員会との打ち合わせ。下:トモケオ小学校校舎贈呈の日、長老たちと私



ស្រីម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

## によにゆむ通信

2018年5月号 No.5

公益社団法人  
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia  
(SSFC) 代表理事 住田平吉  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-44  
第二石坂ビル502  
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019  
E-mail: info@ssfc.or.jp  
ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/

◇2018年度のSSFC支援・協力校はポットロン小学校とスレイ・ビボケイ中学校  
両校ともに校長に指導力があり、先生も若く意欲がある学校です



ポットロン小学校ナウ・ナーン校長と私



スレイ・ビボケイ中の先生たち(私の右がクーン・ボンコン校長)

◇4月23日(月) 14:00 ポットロン小学校(コンポンチュナン州)

ポットロン小学校のナウ・ナーン校長(男・32才)とコンポンチュナン州都近くの喫茶店で会合しました。「以前ポットロン小学校の建設支援をした団体が、ポットロン小学校に“SSFCの先生の指導力向上の活動”を導入して、その成果を来年度の訪問時に見たい」との要請があったことを伝え、SSFCの3つの支援活動について、「パンフレット・によにゆむ通信」を見せて説明しました。

ポットロン小学校は、校長と女性の先生3人(20代2人・30代1人)・生徒数209人(男101人・女108人)の学校です。説明の後、校長は、「私はSSFCと研究を一緒にやりたい。先生と相談して返事をする。」と約束してくれました。

約束の4月25日に、校長は電話で「3人の先生と話し合った結果、3人とも、生徒によくわかる授業のしかたを教えて欲しい。SSFCと一緒に研究をしたい。」との回答を得ました。次回の6月11日(月)に、ポットロン小学校に行き、SSFCの指導力向上支援について説明する予定です。

◇4月27日13:45 スレイ・ビボケイ中学校訪問(シェムリアップ州)

アライン・ランサイ中学校のノッ・サバー副校長を同行して訪問しました。職員室でクーン・ボンコン校長と3人の女性の先生にSSFCの支援について詳しく説明しました。同行したノッ・サバー副校長が、支援内容を「パンフレット」や「によにゆむ通信」を使って、先生の指導が良くなったこと、生徒が授業に集中していることなどを強調して説明してくれました。

校長は、「SSFCの研究協力校支援を受けて、先生の指導力を向上させたい。ここに居る3人の先生もSSFCの指導を受けたいと言っている」。テェ・サーブン先生(女・27才・国語)は、「SSFCに教えて欲しい。私も一生懸命勉強します」、ソクン・リンダー先生(女・27才・英語)は、「私は先生になって3年目ですが、師範学校で習ってきたことでは、生徒に教えられない。授業の仕方も分からないし、知識も不足している。SSFCの指導を受けたい」、センサー・ボアン先生(女・41才・地理・副校長)は、「生徒に分かるような授業の仕方を教えてほしい。SSFCに協力する」とそれぞれ決意を表明してくれました。先生たちの気持ちを聞いて、私はうれしくなりました。

この学校の地域は大変貧しく、親が出稼ぎに行き1人で生活している生徒もいる。この貧しさが、学力の差になっている。ここでは生徒が貧しくて塾には来られない、先生も全員が州都の近くに住んでいて、通勤に1時間かかり、塾をする時間も無い、ということでした。

また、貧しいが成績が1番だった生徒が、学校を辞めて親と一緒に出稼ぎに行ったとのこと。SSFCの支援を受けさせてあげたかった。残念です。

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、下記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店  
口座番号(普) 0968555  
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497  
口座名:公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

右のQRコードからもアクセスできます。

お問い合わせは、  
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019  
E-mail: info@ssfc.or.jp  
ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/



http://www.ssfc.or.jp/

※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「によにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひごらんください。

ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/

◇**ブン・ラッター先生は**  
「指導案を書き、空き教室に生徒を集めて、自主的に授業」をしました。

「先生の指導意欲の向上と生徒の学習意欲」に感激！ 大感激！

アラインランサイ中学校4月25日

10:10～11:00 プン・ラッター先生（女・29才・経験6年）の臨時の国語・文法の授業が行われた。

国語の授業は週に3回しかない。  
しかし、今日は、休んだ先生がいて、その教室が空いていたので、自主的に授業をすることにした。  
生徒に呼びかけたら44人も集まった。

今日の授業では「動詞を名詞に直す、名詞を動詞に直す」という単元の授業をした。

名詞と動詞の二つの言葉を並べて、生徒に答えさせる形で授業が始まった。

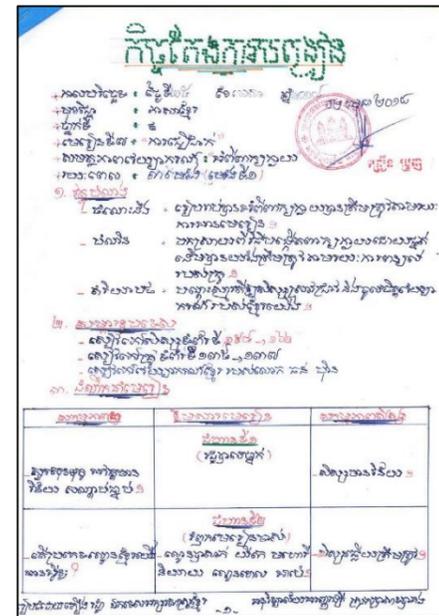
動詞を名詞に代えるには4つのパターンがあることを丁寧に教えていた。

さらに、練習問題を出して、生徒が黒板に答えを書くというやりかたで、解答を生徒に説明させ、先生が補足説明をして褒めていた。

ノートや本を閉じさせて問題を出し、生徒に答えさせたり、パターンに当てはめて考えさせたり、生徒も飽きることなく授業時間を10分も延長して終了した。



ブン・ラッター先生



ラッター先生の作った指導案

◇**授業後の研究会でのラッター先生の話**

授業参観の後の研究会でのブン・ラッター先生の発表

国がつくった先生用の教科書に基づいて進めると、決められた時間内には教えきれない。

ラッター先生は、SSFCの「生徒がよくわかる授業のしかた」で推進している、「授業ごとの指導案」を自分で作成し、この授業計画に沿って授業をしたと発表。

- ・ 1時間毎の指導内容を明確に理解しているので、無駄なく授業が進められた。
- ・ 生徒の興味を起す事、考えさせる事、まとめを計画的に出来た。

指導案を書くために、事前の勉強を沢山した。動詞を名詞に変える4つのパターンも、私自身がよく理解できたので、生徒に自信を持って教える事が出来た。

また、分からない言葉は図書室の辞典で調べた。

◇**授業後の研究会(住田の感想)**

○ラッター先生が指導案を作って授業したのには、驚き感激した。此処まで意欲的にやった事は今までにない、凄い進歩だ。大変嬉しい。

○単元の授業計画を作ることは、単元で教える内容を全て理解しないと出来ない。その上で、教えなければならない大事な内容を網羅して授業計画作るわけだから、計画的に授業が出来、生徒にポイントを押さえた指導が出来た。

○ラッター先生の「生徒を引き付け、自信のある指導や生徒によくわかる指導」は、指導案を作成した勉強から来ているものと言える。

基本であるので他の先生もぜひやって欲しいものです。

○授業内容で良かった事は、動詞を名詞に変える4つのパターンを1つ1つ時間をかけて丁寧に教えて、生徒に理解させた事。

その後で練習問題を出して生徒に解かせ、考えさせた事がよい。

生徒に考える力が養われている。

◇**奨学金給付生徒の紹介 ヌーン・ナイ(フンセン・スワイトム高校1年生 女 16才)**

○家庭環境： 父は、シェムリアップで大工をしている。母は家の小さな畑で野菜を育てて売っている。両親は一生懸命働いている。教育にも熱心。ヌーン・ナイは、5人兄弟の3番目。兄は高校2年・姉は中学3年、小学生の2人の弟妹が居る。

○一家の収入： 大工の父は1日に7\$の賃金をもらうが、月に15日~20日しか仕事がない。母が家の畑でクウシン菜を作って1Kg・600リエル(約15円)で売る。24aの田があり、家族で10ヶ月食べられる米がとれる。子どもが多いので生活は楽ではない。姉・兄とヌーン・ナイの塾代は、米を売って払っている。

○学校の成績と得意科目： クラスで4番~6番の間の成績。中学卒業試験はA。国語と英語が得意。

○性格等： いつも明るくにこにこしている。畑仕事の手伝いも進んでする。勉強も頑張っている。将来は中学校の先生になりたい。

○家族の言葉：「SSFCの奨学金給付を受けて：ヌーン・ナイも高校に行けて感謝しています。勉強を頑張らせます。ありがとうございます。」(母・チア・ニュー談)



ヌーン・ナイ



と妹(左)・妹(中)・母(右)